

令和5年度

東明小だより

令和5年8月30日
第6号



自分を成長させる学校生活に

校長 吉田 尚子

静かな校舎の中に、子どもたちのにぎやかな声が戻ってきました。夏休みの長いお休み期間は、スポーツや勉強、あるいは、作品や研究をがんばった子。また、普段できなかつたお手伝いをがんばった子や思いっきりフレッシュして休息した子・・・など、自分なりの充実した日々を過ごしたことと思います。いずれにせよ、それぞれが大切な夏休みだったに違いありません。子どもたちのたくさんの学びの成果として、今、体育館には、夏休みの宝物である素晴らしい作品の数々が並んでいます。

私の夏休みは、今までなかなか行けなかつた東明小校区にある史跡巡りや、地域の夏祭りにも参加させていただきました。夏祭りでは、学校生活では見ることができない地域の人と一緒に活動する子どもたちの姿を見ることができ、頼もしさを感じると同時に、「地域=ふるさととは、本当にいいな。」と改めて思うことができました。その他にも、久々利生産森林組合主催の自然体験学習会など地域主催の行事も多く開催され、まさに「地域で子どもを育てる」東明小学校であると感じています。

さて、9月以降は、4月から培った力と夏休み中に蓄えた力を合わせ、学習や活動をより充実させる時期となります。子どもたちが楽しみにしている「運動会」、「修学旅行」、「社会見学」など様々な活動や行事があります。まさに「充実」の時です。

私たち教師は、これらの活動や行事を通して、多くの事を学んで欲しいと思っています。

その『多くのことを学ぶ』中には、知識だけでなく、子どもたちが仲間と関わりながら学ぶことで育成できるもの、例えば、東明小学校が、子どもの願う姿としている「自主性」(たくましさ)や「仲間と創り出す」(やさしさ)もその一つです。そのために学校では、



- 「こんなことができるようになりたい、分かるようになりたい。」という子どもたちに、
- 「こんな頑張りをしたから、ここまでできるようになったよ。」と認め、励まし、
- 「次は、こんな頑張りをすると、もっとできるようになるよ。」と方向づけを行います。



たくさんの「不思議」を、調べる・挑戦する・仲間と力を合わせる・できるまで繰り返す・まとめるといったチャレンジを通して、「できた!」にかえ、自分を成長させる力となる学校生活にしてほしいと願っています。

(夏休み作品展の様子より)